

# 十勝・帯広の資源×人×情熱 = まちの元気

新 | 春 | 対 | 談 |  
2018



今年は、十勝・帯広の地域資源を活用し、仲間と夢の実現に向けて挑戦し続けるお二人と、取り組みへの情熱などについて語ります。  
(ホテルヌプカにて)

問い合わせ 広報広聴課 (市庁舎3階、☎65・4109)

## 強まる十勝・帯広への想い



**市長** 今日は、お二人との対談を楽しみにしてきました。

お二人は、十勝の魅力を紹介した短編映画「マイ・リトル・ガイドブック」の制作や、帯広駅前の旧「ホテルみのや」を改修し、「ホテルヌプカ」(以下、ヌプカ)を開業するなど、十勝・帯広の地域資源を生かしたさまざまな取り組みをされています。お二人の活動のきっかけは何だったのでしょうか。

**柏尾** 私も坂口さんも十勝出身で、東京生活が長くなり、年を重ねるにつれ、地元・十勝の素晴らしさをより強く感じていくようになりました。その中で「地元のために何か具体的に取り組みたい」とい

う想いが生まれてきました。

**坂口** 私も、柏尾さんが中心となって立ち上げた、東京で働く十勝出身者や十勝に魅了された多種多様な仲間たちのプロジェクトチーム「ワイガヤ十勝」のメンバーとして活動する中で、「十勝のために」という想いが強くなりました。

**市長** 十勝の素晴らしさはどんなところにあると感じていますか。

**柏尾** 東京などの大都会では、暮らしの中でちよつとした閉塞感を感じることもあります。でも、十勝は「食」や「農業」を中心とした豊かな自然風土の中で、「これはおもしろい」という発想が自由で伸び伸びしています。また、十勝の仲間と話すときは、「皆やろうよ」「やるなら応援するよ」といった元気なメッセージを感じます。



十勝シティデザイン株式会社  
創業者 柏尾 哲哉さん

帯広市出身。帯広駅前にある旧「ホテルみのや」をリノベーション(改修)し、平成28年「ホテルヌプカ」を開業するなど、十勝・帯広の魅力発信や地域活性化に取り組む「十勝シティデザイン」を創業。また、十勝の活性化のために東京在住の十勝出身者や、その仲間たちで立ち上げた「ワイガヤ十勝」では、平成27年、十勝と台湾を舞台にした短編映画「my little guidebook」<sup>※</sup>(監督：逢坂芳郎氏)を制作。

## 人を惹きつける4要素は「自然」「気候」「食」「文化」



**坂口** 私は、十勝には食べ物がたくさんあることですね。高級食材は少ないかもしれないけれど、すごく新鮮でおいしいものが豊富にある。なんといっても、食べ物に囲まれている安心感があります。

**市長** 私はよく、外から訪れた人たちから「十勝・帯広は元気だね」といわれます。私もそう感じていますし、データでも十勝・帯広の元気が分かるものがあります。



例えば国勢調査における帯広市の人口の伸びは、札幌市、千歳市に次いで道内で3番目。市税収入の、平成22年度から平成28年度の増加額と伸び率は、道内主要10市で札幌市に次いで2番目となっています。民間による住みよさランキングでも道内で2番目なんです。

**柏尾** まちが元気なのが、データでも裏付けされているんですね。

**柏尾** デービッド・アトキンソンの著書「新・観光立国論」の中で、世界の観光都市、観光地である人気の国や場所には「自然」「気候」「食」「文化」の四つの共通した要素があり、これらがそろった場所に人は集まるとい話があります。それはまさに十勝のことではないかと思いましたが。観光地として人を惹きつける4要素があるということは、暮らしに適した場所でもあるはずですね。

北海道は本州に比べて歴史が短く、十勝に「文化」があるのかという人もいるかもしれません。しかし私は、依田勉三翁から始まった開拓精神や、地元根付きたがら全国から注目される企業もたくさんあり、独特の気高い文化が立派に息づいていると感じています。

**市長** そうですね。十勝は文化や歴史に対する想いの強い地域です。私も、地元企業の現役でばりばり働いている人たちの中に、地域の文化や歴史のエッセンスを感じますし、そうした人たちがまちの魅力を引き立ててくれると思っています。

## 地元の食と人々の暮らしを大切に



この土地の風土をこよなく愛し、ここで生きることを選択して、自分の生き方に責任と誇りを持った人たちがたくさんいる地域。それが、十勝・帯広だと感じています。

**市長** 十勝・帯広の魅力発信の取り組みをご紹介いただけますか。

**柏尾** 私たちは、十勝を国際的な視点から俯瞰して、地元・十勝が世界、特にアジア諸国と直接結びつく未来をつくりたいと考えました。そこで、まずは映画を作って、十勝の魅力を映像とストーリーで発信するところから始めました。そして、映画から生まれる十勝への注目と、人の流れの受け皿となる場所として、旅行者と地元の人交流できるホテルを作ろうと考えてようになりました。

**市長** モデルとしたホテルがあるそうですね。

**柏尾** はい。米国オレゴン州のポートランド市にある「エースホテル」です。ポートランド市は、豊かな自然と食に恵まれたオレゴン州の中核都市で、環境に配慮したコンパクトな都市機能を持つパランスのよいまちです。オレゴン州とポートランド市の関係は、十勝と帯広市の関係にとっても似ています。ポートランド市は、地元の食材や人々の生活の質を大切にしている、米国で一番住みたいまちとして移住者が増え続けています。そのポートランド市の魅力を象徴するのが、老朽化したホテルを改装したエースホテルです。こんなホテルを帯広に作りたいと思っていたとき、まちなかで営業を終

※ my little guidebook 十勝と台湾を舞台にした短編映画。「映像の力で十勝にしかない魅力を世界に発信したい」という想いから、主人公に台湾の女優を起用し、外国人から見た十勝の魅力などが紹介されている。夏編、冬編があり、動画共有サービス YouTube にて配信中。





十勝シティデザイン株式会社 代表取締役  
ホテルヌプカ 総支配人

### 坂口 琴美さん

幕別町出身。東京のハンバーガーショップ「Rainbow Kitchen」代表。十勝の短編映画制作、クラフトビール、旧「ホテルみのや」改修プロジェクトに関わり、柏尾氏と「十勝シティデザイン」を設立。ホテルヌプカ総支配人に就任。十勝の大きな魅力である食と農をより理解し、「十勝」を世界に届けたいと話す。

了したホテルの存在を知り、ヌプカを開業する一大決心をしました。坂口 私は飲食業に携わる中で農家さんとのつながりが多く、十勝の美味しいものが食べられる場所、生産者の顔が浮かぶ場所を作りたいと思ったことが始まりでした。そして、旅人や地元の人たちが自由に集い、語り合える、最高に楽しい場所にしたいと思いました。柏尾 ヌプカのロビー階にはカフェやバーも併設し、店頭で設置されたショーケースには、ヌプカのキッチンで調理された料理が並んでいます。「地元の畑から採れたものを大切に調理する」ストーリーが見える場所を作りたい、その思いが込められているんです。坂口 やつぱり、作り手の顔や素材が見えると手に取りたくなるものですよ。どこから来たのか分からないものにはない、安心感や価値が生まれると思うんです。柏尾 市長が進める「フードバレーとかち」の理念を、私たちなりにヌプカで実践し、応援していきたいと思っています。市長 うれしいですね。市長で良かったと思う瞬間です。

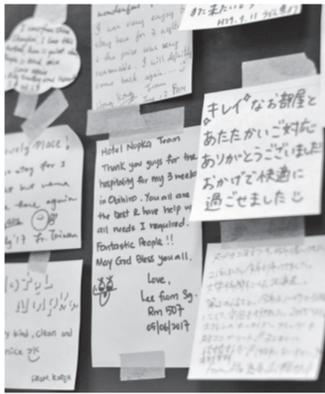
市長 ホテル開業から1年半がたちますが、これまでを振り返っての感想を聞かせてもらえますか。柏尾 地方でゼロから生まれた独立系ホテルなので、最初は口コミもなく、集客に苦労しました。オープンした3月は十勝観光のオフシーズンで、ある程度の覚悟はしていたものの、私たちの事業構想自体が全部間違っているのではないかと不安になったり。坂口 そこをどう耐えるか。私たちは、ヌプカにしかない価値を丁寧にお客様に提供すること、これだけをきちんと積み重ねていけば、必ずこの良さに気付いてくれる。そう信じて前に進み続けてきましたし、今もそう信じています。市長 不安な時期を我慢してよく乗り越えましたね。柏尾 ゴールデンウィーク辺りから少しずつ人の流れが見え始め、その際の口コミの反応がよかったことに勇気付けられました。そこからメディアの取材で取り上げていただいたり、稼働や売り上げの数字がついてきて、1年目の営業が終わったところでようやく何かが生まれてきた感じがありました。2年目からは前年度の稼働を超える月が続ぎ、より手応えを感じられるようになりました。坂口 お客様も最初の頃は日本やアジア圏からが中心でしたが、今はヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなどからもお越しいただいています。柏尾 1年目の外国人旅行者の宿泊者は約25カ国、450人程で、全体の7%程でした。市内のホテルの平均は1%強という統計です。ヌプカは、より国際色豊かなホテルといえると思います。坂口 若者を中心に、広い層の人たちはインターネットで調べ、たとえ地方でも魅力ある場所を求めて世界中を旅する流れになってき

### 旅の始まりにふさわしい 快適な空間づくり



十勝産大麦麦芽100%ビール

ていると思います。今後も十勝の価値に気付く海外からの観光客は、もっと増えると確信しています。それから、利用されたお客様から「部屋は広くはないけれど、すごく清潔で気持ちが良い」といったお褒めの言葉をいただいたときは、滞在にご満足いただけたのだなと、とても実感できる瞬間です。柏尾 ヌプカに滞在したお客様が書き記してくれたたくさんのお墨セージが、5階のラウンジに掲示されています。このホテルは、私たちスタッフだけでなく、お客様と一緒に作っていききたいと願っているのです、その一つ一つが大きな励みとなっています。市長 情報通信技術が発達し、世界中と十勝・帯広が瞬時につながる時代になってきました。海外からの観光客が十勝の大自然を満喫しに来たときに、泊まる宿で重視する点は、豪華さよりも清潔感であったり、心が通じ合う温かさや快適さではないでしょうか。ヌプカは「旅の始まりの場所」として英気を養う、とても心地よい空間づくりをされていると感じます。



宿泊客からのメッセージの数々

市長 情報通信技術が発達し、世界中と十勝・帯広が瞬時につながる時代になってきました。海外からの観光客が十勝の大自然を満喫しに来たときに、泊まる宿で重視する点は、豪華さよりも清潔感であったり、心が通じ合う温かさや快適さではないでしょうか。ヌプカは「旅の始まりの場所」として英気を養う、とても心地よい空間づくりをされていると感じます。

### 「個」がつながることで 動き出す

柏尾 映画やホテルを自ら手掛けるまでは、何かを作るのは企業や組織にしかできないと思っていま

した。でも、同じ価値観を共有する個人がつながることで、組織の壁を越え、物事を動かすことができるのだと身をもって知りました。特に今の時代、インターネットを通じて、いつでも、どこにいてもつながることができずから。日々いろいろなことを仲間と試行錯誤しながら続けていく中で、新たな出会いが生まれて、「次は一緒にやろう」といった仲間の輪もすぐく広がってきています。市長 お二人のチャレンジは、企業や組織ではなく、個人と個人が出会い活躍できる場、「つながり」の玄関とでもいうような場所をつくっています。それはとても重要なことであり、十勝の人たちがまだ気が付いていない、まさに先駆けのような気がします。ここヌプカから、十勝の雄大な空間にある大自然や食といった地域資源の魅力と「個」をつなぎ、そして、旅人や地元の人たちの新たな接点を生み出し、新しい広がりにつながっていると改めて感じさせられました。柏尾 今の旅行者は、自然や食、文化をはじめ、その地域の気質を感じ、地元の人たちとの交流を楽しみたいという傾向が強まっています。ヌプカを旅の拠点として、北の屋台やスイーツ店などさまざまな十勝の食体験を幅広いのまちなかで楽しめることは、アジアをはじめ世界の多くの人にとっても、すごく魅力があるものだと思います。もともと多くの人がこの地域の価値に気付いてくれると、遠くからでも十勝に来たいという世界的なブランド力を確立できるものと期待しています。市長 誰でも、エネルギーを持つ

ている人と話したり、エネルギーを感じる場所で過ごし、自らもエネルギーギッシュになりたいと思うはずであり、どんなに遠く離れていても、行ってみようと思うものではないでしょうか。

### 十勝は人生100年時代の先進地



**柏尾** 先日ヌプカで、リンダ・グラットンさんの著書「ライフ・シフト/100年時代の人生戦略」をテーマにしたトークイベントを開催しました。

医療の進歩などで、これからは人生100年時代になるといわれています。情報通信技術や国際化が一層進み、人口構造や社会環境など、あらゆることが変わって行く中で、私たちは、ライフシフト※し自分らしい生き方をデザインしていくことが問われています。

「組織からの自立を伴うライフシフトが起こるのは東京が一番最後で、地方から先に始まる。中でも、自然と食に恵まれる十勝が一番だ」との声が上がり、道外から来た講演者も含めイベント会場はすごく盛り上がりました。

**坂口** すごい熱気でしたよね。



**市長** 先ほど柏尾さんが言ってくれた、ここ十勝には、人を惹きつける四つの要素があるということ。

それに加えて、開拓精神を受け継いださまざまな変化に対応する力や多様性を受け入れる寛容さ。そして、何より情熱やエネルギーにあふれる人たちがたくさんいること。私も、この地域が先進地になる素地や可能性は、十分に備わっていると思います。

**柏尾** 本当にそうですね。

**市長** その上で、これからの人生100年時代を生き抜いていけるまちになるためには、中長期的な展望を持ったまちづくりを意識していくことが大切だと思います。

まちの魅力や豊かさを求めるとき、それぞれの世代が、どのような豊かさや生き方を望んでいるのかを考え、具現化していくことが重要になってきます。

### 働き・暮らす喜びが感じられる場所であり続ける

**坂口** ホテル開業に当たり、スタッフを募集した際、ホテル業の経験者は1人しかいなくて、人材を確保するのが大変でした。今の時代は、普通の時間に淡々と働きたいという人が増え、サービス業は人気がない職業です。でも、私

がこの仕事を続けてきて本当に良かったと思うのは、苦労したこと以上のうれしいことをたくさん得られたことです。

仕事では、毎日いろいろなことが起こります。それは生きていく上でも同じこと。経験していく中で、自分の対処方法や引き出しを増やしたり、人との関係性が蓄積できることが自分にとって大きな財産になる。そういう意味において、接客業、サービス業には生きる力をつけられる魅力を感じます。

**柏尾** よく「地域で雇用をつくる」

といわれますが、「雇用はあるが働き手が少ない」というのが実感です。逆に働き手を惹きつける企業になれば、ビジネスは大きく前進していけます。少子高齢化が進む中、求められる働き場所や働き方をつくり出すことに注力して取り組むことが大切です。この地域で働くこと、その喜びを伝えていくことは、まちづくりにおいても重要なことではないでしょうか。

近年、一つの仕事だけをする「専業」の時代ではなくなりつつある中で、私たちはさらに、仕事を複数掛け持つ「兼業」が当たり前な職場となることを目指しています。人生100年時代は、一人ひとりが個性やスキル(能力)をどんどん成長させていくことができます。多様なスキルや価値観を持った仲間が協力しあい、誰もがやりがいや達成感を感じられる、そんな働き方が理想です。

**市長** 今、国では働き方改革を進めています。残業時間を減らすなどの物理的な話よりも、やりがいや目的をどう見出ししていくかが重要だと思っています。淡々とこなす仕事に感動は生まれにくいですが、悩み、苦労した末に、それを乗り越えたときの達成感がこの仕事にはあるんだ、ということが伝われば、人はおのずと集まってくると思うんですよ。

そして、こんなに人との接点があつて、こんなに喜びがあるんだ、というやりがいを感じて、生き生きと前向きに暮らす人たちが増えていけば、まち全体も元気になっていくのだと思います。

誰もが生き生きと働き、暮らす喜びが感じられる、そんな、すてきなまちにしていきたいですね。

### 誰もが元気に生きられるまち



**市長** 最後に、これからのお二人の抱負や十勝・帯広の皆さんへのメッセージをお願いします。

**柏尾** 東京での暮らしが長くなる中で、上質な価値や暮らし方の源流は、地域や地方にあるのだと気づきました。これからは、魅力ある十勝・帯広が、東京を経由せず、直接世界と向き合いつながっていく未来の姿を意識していただきたいと思っています。そのためには、空間的にも時間軸も、100年とか次の世代を見据えた大きなスケールで想像力を働かせる。そのときに大事になってくるのは、仲間や家族と「楽しく働き、楽しく暮らす」ことだと思っています。「ここで働きたい、活躍したい」という人の輪が広がることで、事業としても、まちとしても、世界を惹きつける発信力を持つようになると思います。そのような未来に向けての十勝・帯広の旅は始まったばかり。自分としても大切に取組みを継続し、地元のためにお役に立ちたいと願っています。

**坂口** 「楽しいな」って思いながら働いているだけで、すごく一日が充実したのになりますし、気持ち良く働いている人の周りには、気持ちのいい人が集まってきました。人生の楽しみは、日々の何気ない日常の中にたくさんあります。「私は何も見つかっていない」なんて思っている、少しずつ何かが起こっているということ、皆さんにも五感を使って感じてほしいです。自分に響くものを、響く人たちの輪を少しずつ広げていくだけで、すごく人生が違ったものにな

なっていくと思つています。

**市長** 今日は、前向きなお二人との対談を通じて、情熱を持つて事に向き合えば、必ず新しい何かが生まれるということを改めて教えていただきました。

ここ十勝が「元気」といわれるのは、たぶん十勝の人たちが、お二人のように前向きだからだと思います。「十勝晴れ」に代表されるこの地域の気候もまた、それを後押ししてくれているのではないのでしょうか。明日に夢を持ち、人と会おうのが楽しい、何か新しいことにワクワクする、そんな人たちがたくさんいる元気なまち、十勝・帯広。今まさに、お二人のチャレンジがそれを具現化してくれていて、大変心強くと感じました。

これからも、お二人が十勝・帯広の元気づくり、ますます活躍されることを期待しています。今日は本当に楽しかったです。どうもありがとうございます。

**柏尾・坂口** こちらこそ。有意義な時間をどうもありがとうございました。これからも頑張ります。

### ホテルヌプカ



HOTEL NUPKA  
西2南10、☎20・2600  
www.nupka.jp

「ヌプカ」はアイヌ語で「原野」を意味し、ここを拠点に美しい十勝平野を巡ってほしいという想いを込めたもの。併設するカフェ/バーは宿泊客以外も利用可能で、地元食材を使った料理を提供している。

※ライフシフト これまでの「教育・仕事・そして引退」という生き方から、仕事や生活の変化への柔軟な対応力・行動力、人とのつながりなどを重視し、「人生100年時代の豊かで充実した生き方」に移行していくこと。